

何ノ 誰
年齢
右ハ何々病ニ罹リ手術治療御依托候コ付テハ御手術中ハ勿論以后何様ノ變症相
出候共聊カ遺憾無之候依テ保証人連署証狀如件
手術願人 何ノ 誰

縣國郡區町村寄地居住(借舎)(寄留)

(寄留ノモノハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

族籍職業

保証人 何ノ 誰

年號月日

宮城病院

御中

第百條 藥價及手術料等ハ總則第十三條ニ據リ毎月毎十日之ヲ納ムヘシ

第百一條 入院中禁忌振生運動靜息等ハ總テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

第百二條 凡入院中患者ハ勿論保護人等ハ病室内ニ於テ放歌又ハ高聲ノ談話ヲナス
可ラス

第百三條 室内廻診ハ午前第九時ヨリ午後三時迄トス此時間ハ必ス在室スヘシ

第百四條 正副院長廻診ノ後變症アルキハ直ニ當直醫員ニ通知スヘシ

第百五條 外出セントスルキハ其事由ヲ當直醫員ニ告ケ許可ヲ受クヘシ

但歸院ハ午後十時ヲ限トス

第百六條 門限后猥リコ出入ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アル者ハ當直醫員ノ許

可ヲ受クヘシ

第百七條 日曜日電機療法及ヒ諸手術等ハ總テ休止ス

但大患急症ハ本條ノ限ニ非ラス

第百八條 不得止事故アリテ外泊セントスル者ハ保証人ヨリ願出許可ヲ受クヘシ

第百九條 退院セントスル者ハ午前八時ヨリ正午十二時迄ヲ限リ當直醫員ニ申出其

証書ヲ受ケ藥價ヲ納ムヘシ

但至急事故アリ退院ノ節ハ時間ニ限ラズト雖モ必ス本條ノ手續ニヨルヘシ

第百十條 浴湯ハ看護人ノ通知ヲ得混雜セサル様入浴スヘシ

第百十一條 看護者ヲ雇入ルカ又ハ家族親戚等ノ看護ヲ願フ者ハ其意ニ任スト雖モ

二人以上在室セシムヘカラス

但不得止事故アル者ハ此限リニ非ス

第百十二條 患者ノ飲食品ハ總テ當直醫員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ供用スヘカラス

第百十三條 入院中相互ニ金錢衣服ヲ貸借スルコトヲ許サス

第百十四條 諸商人ヲ室内ニ呼入物品賣買ヲ爲スヘカラス

但不得止事故アル者ハ受付係ノ指揮ヲ受クヘシ

第百十五條 看護人及小使等へ贈遺ヲナスヘカラス

第百十六條 出火及ヒ非常ノ節ハ元寺小路中敷院へ立退クヘシ

但大患重症ノ者ハ本院人足ヲシテ臨時ノ手當ヲナスヘシ

第百十七條 入院中金錢並重要ノ物品ハ成ルヘシ事務局へ預ケ置クヘシ

第二節 外來患者心得

第百十八條 診察時間ハ五月一日ヨリ九月十日迄ハ午前第八時ヨリ午後二時マテ九月十一日ヨリ四月三十日マテハ午前九時ヨリ午後三時迄トス

但時限前後及休日ハ當直醫員ニ於テ診察スヘシ

第百十九條 診察治療ヲ乞フモノハ其旨應接醫員へ申入ルヘシ

第百二十條 診察順序ハ參院ノ前後ニ因ルモノトス

但急症ハ此限ニ非ス

第百二十一條 自宅ニ於テ診治ヲ受ケントスルモノハ其旨應接醫員へ申入ルヘシ

第百二十二條 自宅受療ノ患者ヲ回診スルハ午后タルヘシ

但急症ハ第百二十條但書ニ同シ

第百二十三條 赤貧ニシテ施藥治療ヲ乞フモノハ郡區長又ハ戸長ノ印証ヲ添ヘ本院へ願出指揮ヲ受クヘシ

第三類 病院

第二百二十四條 醫員ヲ指名シ診察治療ヲ乞フモノハ其意ニ任スヘシ

第二百二十五條 本院ノ治療ヲ受クル間ハ無斷ニテ他ノ治療ヲ受クヘカラス

第二百二十六條 往診醫員ノ車賃及旅費ハ納ムルニ及ハス

但本縣寄留ニ非ル他管人ハ此限ニ非ス

第二百二十七條 藥價診斷料手術料ハ總則第十二條第十三條ニ據リ其時々會計係ヘ納ムヘシ

ムヘシ

第二百二十八條 外療手術ヲ請フ者ハ入院患者心得書第九十九條ニ掲載セル書式ノ証書ヲ差出ス可シ

書ヲ差出ス可シ

宮城病院分院規則

第一章 總則

第一條 分院ハ渾テ本院規則ニ準シ外來患者ノ診察治療ヲ掌ル所トス

第二條 患者ニ接スル總テ懇篤丁寧ヲ主トスヘシ

第三條 昇降期限夏期ハ自五月一日午前八時參院午後三時退院冬期ハ自九月十一日至翌年四月廿

日午前九時參院午後四時退院トス

但院務繁劇ナルキハ此限ニ非ス

第四條 休暇日ヲ定ムル左ノ如シ

一月一日ヨリ一月三日マテ

日曜日

紀元節

神武天皇祭

天長節

春季皇靈祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

新嘗祭

十二月廿九日ヨリ十二月三十日迄

但當日ハ當直ニ於テ諸務ヲ取扱フヘシ

第五條 醫員吏員參院シタルキハ勤惰簿ニ捺印スヘシ

但シ病氣又ハ止ムヲ得サル事故アリテ不參スルキハ院長ニ届出ヘシ

第六條 診察料ハ患者ノ意ニ任セ應分ノ金額ヲ納メシム

第七條 手術料及藥價ハ左ニ定ムル所ニ據ルヘシ

但シ貧困ノ者ハ此限ニアラス

散劑	一日分	金五錢
煉劑	半	金五錢
頓服	一回分	金三錢
外用劑名	量數	價額
膏藥	一	金貳錢五厘
外布劑	一	金貳錢五厘
含漱冷湯劑	一	金壹錢貳厘
洗滌劑	一	金三錢
點眼藥	一	金三厘
木綿絆膏	一寸方形	金三厘
絹絆膏	一寸方形	金貳錢五厘
單鉛膏	一寸方形	金貳厘
坐藥	一個	金三錢
巴布	五	金三錢五厘

藥價表

丸劑	水劑	內用劑名	量數	價額
一日分	一日分			金五錢

外科手術料表	
一等術	金拾圓以上
二等術	金七圓以上
三等術	金五圓以上
四等術	金三圓以上
五等術	金壹圓五拾錢以上
六等術	金五拾錢以上

麻酔巴布	五	弓	金六錢
芥子泥	一寸方形	金壹	錢

但特ニ高價ノ藥劑ハ此限ニ非ズ年齡十歲未滿ハ本表代價ノ半減タルヘシ

第八條 醫員往診チナスニ當リ診察料ノ外ハ其病家ヨリ旅費及車賃等ヲ受クヘカラズ

但シ本縣寄留ニ非サル他管人ノ應招ハ相當ノ旅費ヲ納ムヘシ

第九條 往診ノ外猥リニ旅行ヲ許サズ院務旅行ノキハ縣令ノ許可ヲ受クヘシ

但シ急劇ノ場合ニ於テハ出發ノ後其事由ヲ具申スルヲ得ヘシ

第十條 管下人民ニシテ貧困若クハ鰥寡孤獨ノ者ハ縣令ノ許可ヲ得入院施療セシムルヲアルヘシ

第十一條 醫員吏員ノ月俸ハ毎月十七日備小使以下ハ毎月末日之ヲ支給スヘシ

第十二條 入院患者保護ノ爲メ出火及ヒ非常ノ立退場ヲ定メ置クヘシ

第十三條 院內諸係リニ於テ調製保管スヘキ帳簿目錄左ノ如シ

診察係管守ノ部

處方錄

患者月表

番號錄

往診錄

病狀錄

治檢錄

當直日誌

書籍器械目錄
附錄

增減明細
診斷死亡錄

入院退院明細錄

調劑係管守ノ部

調劑日誌

藥品購入臺帖

藥品望帳

藥品增減月表

局方略

常務兼會計係管守ノ部

縣廳御達綴

上申伺届書草按綴

願伺處分綴

本院往復綴

郡役所及各分院往復綴

諸統計表

醫員吏員進退錄

勤惰簿

經費金日拂簿

第三類 病院

諸受領証綴

出納簿

經費原簿

追算簿

日計簿

需用費拂簿

備付品本帖

消耗品交附簿

月給渡帳

器械注文帖

収入金日計簿

藥價收入簿

病室料收入簿

診察料收入簿

物品拂代收入簿

一期勘定帖

同上明細表

出納諸表

第二章 分院長

第十四條 職制及事務章程ニ據リ院中ノ諸員ヲ督勵シ一切ノ諸務ヲ主宰スヘシ

第十五條 毎日午前八時ヨリ外來患者ヲ診察シ午後一時ヨリ入院患者ヲ回診スヘシ

但シ急症危篤ノ患者ハ此限ニアラス

第十六條 大患劇症ニシテ參院スル能ハサル者ノ請ヘニ應ジ往診スヘシ

第十七條 入院外來及棋毒患者ノ月表ヲ製シ翌月十日限り本院へ差出スヘシ

第十八條 前條半年及一ケ年 前年七月ヨリ患者統計表ハ其翌月十日限り本院ヲ經テ

縣廳へ差出スヘシ

第十九條 金錢ノ出納ヲ監督シ會計係リヨリ差出ス所ノ勘定帳并月表年表ハ翌月十日限り本院へ送付スヘシ

第二十條 前月ノ收入金ハ翌月十日限り本院へ納付直ニ受取ノ手續ヲナスヘシ

第三章 診察係

第二十一條 院長ヲ補佐シ入院外來ノ患者ヲ診察シ且往診ニ從事スヘシ

第二十二條 醫事ニ關スル諸簿ヲ調製シ一切ノ筆記ヲ掌ルヘシ

第二十三條 娼妓檢査ニ從事シ檢査簿ハ每三ケ月分取纏メ院長ノ檢閲ヲ經テ次月十日限り本院へ送付スヘシ

第二十四條 院内ノ書籍器械ヲ管守シ新調ヲ要スルカ或ハ破損等アルキハ會計係ニ合

議シ院長ノ決ヲ取リ購入又ハ修理ノ手續ヲ爲スヘシ

第四章 調劑係

第二十五條 院長ノ指揮ヲ受ケ調劑一切ノ事務ヲ負擔シ製藥及配劑ニ從事スヘシ

第三類 病院

第廿六條 患者ニ與フル藥瓶ノ標紙及患者ノ姓名ヲ詳記シ誤用ナカテヤムヘシ

第廿七條 劇烈ナル藥品ヲ與フルキハ注意物ノ印ヲ捺シ其旨ヲ懇諭スヘシ

第廿八條 處方ノ藥品配合用量ニ付不審ノ廉アルキハ院長又ハ主任醫ニ商議シテ后

ヲ調劑スヘシ

第廿九條 處方箋ニ主任醫若クハ藥價濟檢印ナキキハ調劑セサルモノトス

但シ藥價后收ノ証アルキハ此限ニ非ス

第三十條 藥品購入ヲ要スルキハ其購入スヘキ藥名量目ヲ明記シ院長ノ決ヲ取り庶

務係ニ通牒スヘシ

但シ特急ヲ要スル場合ニ於テハ處分ノ后本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 藥品増減月表ヲ製シ院長ノ檢閱ヲ經テ翌月十日限り本院ニ送付スヘシ

第三十二條 調劑用ノ書籍器械ヲ管守シ臺帖ニ明記シ置クヘシ

但シ新調及修繕ヲ要スルキハ院長ノ指揮ヲ受クヘシ

第五章 庶務係

第三十三條 院長ノ指揮ニ隨ヒ諸申牒及一切ノ往復文書ヲ掌ルヘシ

第三十四條 事務ニ係ル書類及備付物品ヲ洩ナク原簿ニ膠記シ院長ノ檢印ヲ受ケ之

ヲ保管スヘシ

第三十五條 院内病室ヲ時々巡視シ破損ノ修理又ハ不潔ノ掃除等ニ注意シ諸事ノ取

締ヲナスヘシ

第三十六條 金錢出納ハ院長ノ証印アルコト非レハ一切受渡ノ手續ヲナスヘカラス

但シ藥價ノ收入又ハ定規成例アルノ類ハ處分シテ後院長ニ届出ツヘシ

第三十七條 金錢物品ヲ授受スルキハ必ス証書ト交換スヘシ

第三十八條 豫算金額ヲ目的トシ金錢出納ノ權衡當否ヲ密接シ意見ヲ院長又ハ本院

監事ニ具陳スヘシ

第三十九條 金錢出納ハ毎日午后三時ヲ限リ精算シテ院長ノ檢印ヲ受クヘシ

第四十條 出納勘定帖及明細表ハ毎月分取纏メ翌月五日限り院長ニ差出スヘシ

第四十一條 出納月表ハ翌月五日限り半年表ハ一月五日限り一年表ハ七月七日限り

第三類 病院

院長へ差出スヘシ

第四十二條 患者處方箋ヲ指出スルハ直チニ藥價ヲ收入シ之ニ捺印スヘシ

但藥價后收ノ証アルモノハ其旨ヲ方箋ニ明記スヘシ

第四十三條 入院患者ノ方箋ニハ價額ヲ記シ置キ毎月十日廿日三十日 大ノ月卅一日
ノ三度ニ收入スヘシ

但シ退院ノ節ハ即時収入スルモノトス

第四十四條 入院ヲ請フモノニハ患者心得書ヲ示シ入院証ヲ差出サセ院長ノ指揮ヲ
受クヘシ

宮城病院分院及出張所患者心得書

第一章 入院患者心得

第一條 入院治療ヲ乞フ者ハ某郡分院アル住居ノ戸主ヲ保証人トナシ左ノ離形ノ証
書ヲ差出スヘシ
但本町村戸長ノ証書ヲ以テ願出ル者ハ此ノ限ニアラス

離形

入院証 用紙証券界紙

縣國郡區町村番地居住(借舎)(寄留)

(寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

族籍職業

何、ノ 離

年齢

右今般入院治療相願候ニ付本人身元ノ儼ハ保証人ニ於テ一切引受御規則爲相
守候ハ勿論藥價等十日毎ニ可相納萬一本人コテ相滞候節ハ保証人ニ於テ屹度
辨償可仕候依之証狀如件

入院願人 何、ノ 離

縣國郡區町村番地居住(借舎)(寄留)

(寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

第三類 病院

族籍職業

保証人 何ノ誰

宮城病院何分院(出張所)

御中

第二條 外療手術ヲ乞フ者ハ左ノ雛形ノ証書ヲ差出スヘシ

外療手術依託證 用紙證券界紙

縣國郡區町村番地居住(借舎)(寄留)

(寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

族籍職業

何ノ誰

年齢

右何病ニ罹リ手術治療御依託候ニ付テハ御手術中ハ勿論以何様ノ變証相生候共聊遺憾無之候依テ保証人連署証狀如件

手術願人 何ノ誰

縣國郡區町村番地居住(借舎)(寄留)

(寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

族籍職業

何ノ誰

宮城病院何分院(出張所)

御中

第三條 診察料手術料藥價等ハ分院規則第六條第七條ニ據リ是レヲ納ムヘシ

第四條 入院中禁物發生及ヒ動靜等ノ事ハ總テ醫員ノ指圖ニ從フヘシ

第五條 室内廻診ハ午後タルヘシ故ニ此時間内ハ必ス在室スルモノトス

但都合ニ依リ廻診時限ヲ變換スルコトアルヘシ

第六條 何時コトモ病症ニ變リアルナキ時ハ直チニ醫員へ通スヘシ

第七條 外出セントスル時ハ醫員ニ通シ其許シヲ乞フヘシ

但シ歸院ハ午後十時ヲ限リトス

第八條 止ヲ得サル事故アリテ外泊セントスル者ハ保証人ヨリ願出許シテ受クヘシ

第九條 退院セントスル者ハ醫員ニ申出テ其證書ヲ受ケ直ニ藥價ヲ納ムヘシ

第十條 看護人ハ専ラ病者ノ看護ヲ司ルモノナレハ病者猥リニ他ノ私用ニ使フヘカ

ラス

第十一條 親族朋友ノ看護ヲ願フ者ハ其意ニ任スト雖モ二人ヨリ多ク在室スルヲ許

サス

但シ止ムヲ得サル事故アル者ハ此限ニ非ス

第十二條 患者ノ飲食品ハ総テ醫員ノ許シテ得ルコアラサレハ用ユルヘカラス

第十三條 入院中ハ患者互ニ金錢物品ヲ貸借スヘカラス

第十四條 商人ヲ病室内ヘ呼入物品賣買ヲナスヘカラス

第十五條 看護人及小使等ヘ贈リ物等ヲナスヘカラス

第十六條 入院中ハ金錢並重要ノ物品ハ成ルヘク庶務係ヘ預リ置クヘシ

第十七條 出火及非常事變ノ節ハ豫テ定メタル地所ヘ立退クヘシ

第二章 外來患者心得

第十八條 診察時間ハ五月一日ヨリ九月十日マテハ午前八時ヨリ午後三時マテ九月

十一日ヨリ翌年四月三十日マテハ午前九時ヨリ午後四時マテトス

但止ムヲ得サル分ハ時限ヲ論セス診察スヘシ

第十九條 診察ノ順序ハ參院ノ前後ニ因ルモノトス

但急病ノ者ハ此限ニ非ス

第二十條 自宅受療ノ患者ヲ往診スルハ午後六時ニシテ雖モ醫員ノ都合又ハ其病症

ニ依リ時限ニ拘ハラズ往診スル事アルヘシ

第二十一條 赤貧コシテ施藥治療ヲ乞フ者ハ郡役所又ハ戸長ノ印證ヲ添ヘ願出ヘシ

第二十二條 當院ノ治療ヲ受ル間ハ無斷ニシテ他ノ治療ヲ受クヘカラス

第二十三條 往診醫員ノ車賃及旅費ハ納ムルニ及ハス

但本縣寄留ニ非サル他管人ハ本條ノ限リニアラス

第三類 病院

第廿四條 藥價診察料手術料ハ分院規則第六七條ニ據リ其時々會計係ヘ納ムヘシ

第廿五條 外療手術ヲ乞フ者ハ入院患者心得書第二條ノ手續ヲナスヘシ

(第二百十七) 明治十四年八月卅一日達

乙第四十号

郡區町村

宮城病院及分院職制並事務章程月俸例則別冊ノ通相定候條爲心得此旨相達候事

(別冊)

宮城病院職制

院長 壹人

第一 院務ヲ總理シ専ラ患者ノ診斷治療ヲ掌ル

第二 各醫員調劑生ノ能否勤惰ヲ查察シ進退黜陟ヲ縣令ニ具申スルヲ得

第三 衛生事務ニ付意見ヲ縣令ニ開申スルヲ得

第四 看護人器械職工ノ進退ヲ專行スルヲ得

副院長 壹人

職掌院長ニ亞シ

醫局長

醫局事務ヲ主宰シ患者ノ診斷治療ノ事ヲ擔任ス

院醫 一等ヨリ五等ニ至ル定員ナシ

患者ノ診斷治療ヲ分擔ス

藥局長 壹人

藥局事務ヲ主宰シ藥物試驗ノ事ヲ擔任ス

調劑 一等ヨリ五等ニ至ル定員ナシ

藥劑配合ノ事ヲ分擔ス

院長附書記 定員ナシ

院長ニ附屬シ諸般ノ筆記ヲ擔任ス

監事 壹人

第一 院中ノ常務會計ヲ管理シ一切ノ院務ヲ監査ス

第三類 病院

第二 吏員ノ能否勤惰ヲ查察シ進退黜陟ヲ縣令ニ具申スルヲ得
 第三 院中ノ經濟ヲ審察シテ縣令ニ開中スルヲ得
 第四 給仕小使等ノ進退ヲ專行スルヲ得
 副監事 壹人
 職掌監事ニ亞シ
 庶務係 定員ナシ
 監事ヲ輔ケテ院中ノ常務ヲ處辨ス
 會計係 定員ナシ
 監事ヲ輔ケテ院中ノ會計ヲ分擔ス
 院長事務章程
 院中ノ事務縣令ニ稟請スヘキ者ト院長ノ專行スヘキ者トヲ分テ上下二款ト爲ス其目
 左ノ如シ

上款

- 第一 院中醫務ニ關スル規則方法等ヲ創立變更釐正スル事
 - 第二 醫員調劑生ヲ採用スル事
 - 第三 醫員調劑生賞譽ノ事
 - 第四 醫員調劑生師省及暇願ノ事
 - 第五 醫員調劑生ヲ分院又ハ出張所ヘ在勤セシムル事
 - 第六 正副院長管外往診ノ事
 - 第七 死屍解剖ノ事
 - 第八 病室ヲ増減スル事
 - 第九 定額外ノ書籍器械ヲ購求スル事
- 以上監事ト協議縣令ニ具申シ又ハ指揮ヲ請フテ後施行スヘシ
- 下款
- 第一 醫員往診ノ事
 - 第二 梅毒検査ノ事

第三 醫員宿直ノ事
 第四 患者入院願ノ事
 第五 醫員ニ課業ヲ分任スル事
 第六 定額内ヲ以テ器械書籍藥品ヲ購求スル事
 第七 検毒検査表及患者表ヲ調製スル事
 以上成規アルモノハ其成規ニ因テ處分シ成規ナキモノハ監事ト協議審案專
 行ノ後縣令ニ開申スヘシ
 監事々務章程
 院中ノ事務縣令ニ稟請スヘキモノト監事ノ專行スヘキ者トヲ分テ上下二款ト爲ス其
 目左ノ如シ

第一款
 第一 事務局ニ關スル規則方法等創立變革整正ノ事
 第二 豫算外ノ費用ヲ支出スル事

第二款
 第三 不用ノ書籍器械物品ヲ賣却スル事
 第四 吏員ヲ分院へ派出又ハ在勤セシムル事
 第五 吏員節省及ヒ暇願ノ事
 第六 吏員賞與ノ事
 第七 正副監事各分院等へ出張ノ事
 第八 貧民施療願ノ事
 以上院長ト協議縣令ニ具申又ハ指揮ヲ請フテ後施行スヘシ

下款
 第一 常用經費ヲ支出スル事
 第二 藥價等ヲ收入スル事
 第三 諸表ヲ調製スル事
 第四 定額金ヲ以テ病室圍庭塀牆等ヲ掃除修繕スル事
 第五 吏員ニ課業ヲ分任スル事

第六 郡區長戸長等へ照會スル事

第七 俸給旅費並宿直辨當料ヲ支給スル事

以上成規アルモノハ其成規ニ因テ處分シ成規ナキモノハ院長ト協議審案專

行シテ後縣令ニ開中スヘシ

宮城病院分院職制

分院長 壹人

第一 分院ノ事務ヲ總理シ專ラ患者ノ診斷治療ヲ掌ル

第二 醫員調劑會計吏員ノ能否勤怠ヲ查察シ意見アルトハ院長監事ヲ經テ縣令

ニ具狀スルヲ得

第三 分院所在ノ地方衛生上ニ付意見アルトハ院長ヲ經テ縣令ニ開中スルヲ得

第四 院内ノ經濟ヲ審案シ意見アルトハ本院監事ヲ經テ縣令ニ開中スルヲ得

第五 監護人小使等ノ進退ヲ專行スルヲ得

醫員 定員ナシ

分院長ヲ補佐シ患者ノ診斷治療ヲ掌リ兼テ診察所事務ヲ擔任ス

調劑 定員ナシ

藥室一切ノ事務ヲ擔任シ藥劑配合ノ事ヲ掌ル

庶務係 一人

分院長ヲ補佐シ院中ノ常務會計一切ノ事ヲ擔任ス

分院長事務章程

院中ノ庶務本院々長監事ヲ經由シテ縣令ニ稟請スヘキモノト分院長ノ專行スヘキモノトヲ分テ上下二款ト爲ス其目左ノ如シ

上款

第一 院中醫務及事務ニ關スル規則方法等ヲ創立變更釐正スル事

第二 醫員調劑生及吏員ヲ臨時雇ニ採用スル事

第三 醫員調劑生及吏員ヲ賞與スル事

第三類 病院

- 第四 醫員吏員歸省及暇願ノ事
 - 第五 限算外ノ費用ヲ支出スル事
 - 第六 不用ノ書籍器械物品ヲ賣却スル事
 - 第七 貧民施療願ノ事
- 以上醫務ハ院長事務ハ監事ヲ經テ縣令ニ稟議シ許可ヲ得テ後施行スヘシ
- 下款
- 第一 管内外往診ノ事
 - 第二 種痘ノ事
 - 第三 娼妓檢査ノ事
 - 第四 患者諸表及出納諸表ヲ調製スル事
 - 第五 醫員吏員當直ノ事
 - 第六 常用經費ヲ支出スル事
 - 第七 患者入院願ノ事

以上成規アルモノハ其成規ニ因テ處分シ成規ナキモノハ院長又ハ監事ニ稟議申行シテ後縣令ニ開申スヘシ

宮城病院職員月俸例則

院長	二百圓以上 三百圓以下
副院長	八十圓以上 百五十圓以下
分院長	三十五圓以上 七十圓以下
院長附書記	十圓以上 三十圓以下
醫局長	五十圓以上 七十圓以下
一等院醫	三十五圓以上 四十五圓以下
二等院醫	三十圓
三等院醫	二十五圓
四等院醫	貳十圓

第三類 病院

五等院醫	十五圓
同局附屬	十圓以上 十七圓以下
器械係	十圓以上 三十圓以下
外科器具	貳圓五十錢以上 七圓以下
看護人	
藥局	
藥局長	三十圓以上 四十圓以下
一等調劑	十五圓以上 二十圓以下
二等調劑	十三圓
三等調劑	拾圓
四等調劑	八圓
五等調劑	六圓
事務局	

監事 三十五圓以上
 副監事 七十圓以下
 庶務係 二十圓以上
 會計係 三十圓以下
 五圓以上
 十七圓以下
 五圓以上
 十七圓以下

〔第二百十八〕 明治十五年三月卅一日布達
 甲第四十二號
 今般刈田郡白石本郷へ公立病院ヲ設立シ宮城病院白石分院ト相稱シ候條此旨布達候
 事

醫事
 〔第二百十九〕 明治十二年四月廿八日布達
 甲第六十九號
 自今醫術開業試驗出願ノ者ハ本年(二月)内務省甲第三號布達試驗規則ニ據リ來ルルハ

月可及試驗候條右規則第二條ニ照準七月十日迄願書可差出此旨布達候事
(備考)明治十二年二月廿四日內務省布達

甲第三號

明治九年一月當省乙第五號達中醫師試驗科目等別冊試驗規則ニ從ヒ本年八月ヨリ可致施行此旨布達候事

但是迄及指令置候條項ニシテ該規則ニ抵觸致シ候分ハ廢止候儀ト可相心得事

醫師試驗規則

- 第一條 試驗科目
 - 第一 理學
 - 第二 化學
 - 第三 解剖學
 - 第四 生理學
 - 第五 病理學
 - 第六 藥物學
 - 第七 內科學
 - 第八 外科學
- 或ハ專門各科

第二條 醫術ヲ開業セント欲スルモノハ醫術ノ科目內外科專門內科專門外科及ヒ産科眼科齒科等開業ノ場所ヲ記シタル願書ニ其修學履歷書并教師ノ証書ヲ添ヘ管轄廳ニ願出テ試驗ヲ請フヘシ

但試驗ヲ請フハ年齡滿二十年以上ノ者タルヘシ

第三條 日本官立大學并ニ歐米諸國ノ大學校ニ於テ醫學卒業証書ヲ得タル者ハ更ニ試驗スルヲ要セス其修學履歷書ニ卒業証書ヲ添ヘ管轄廳ニ經由シ免狀ヲ請フヲ得ヘシ

但卒業證書ハ管轄廳ニ於テ本書ヲ審査ノ上其寫書ヲ差出サセ候ハ便宜タルヘシ

第四條 地方廳ニ於テハ毎年二月五月八月十一月ノ四度ヲ以テ試驗場ヲ開クヘキノ期トシ其定期前豫メ試驗開場ノ時日ト出願ノ期限トヲ管内ニ廣告スヘシ

但シ地方ノ便宜願人ノ多寡ヲ參酌シ定期ヲ減シテ毎年兩度ト爲スハ妨ケナシト雖モ其由ヲ當省衛生局ニ通知スヘシ

第五條 地方廳ハ前條ノ期日迄ニ出願シタル受験人ノ姓名及ヒ其志願ノ科目ヲ誌ルセル簿冊ヲ作り之ヲ第二條ニ掲ケタル履歷書并教師ノ証書一同送ニ內務省ニ開申シテ問題ヲ請フヘシ

第三類 醫事

第六條 問題ハ内務省ニ於テ撰定シ一學科毎ニ一二問乃至三問トシ各一ニ之ヲ封シテ其學科ヲ記シ更ニ總括シテ每一人一封トシ其上套ニ番號ヲ附

シ地方廳ノ申請ニ應ジテ之ヲ交付スヘシ

第七條 地方廳ハ毎期公立(府縣立ヲ含ム)病院長副或ハ管下醫師ノ學術アル者及ヒ理化學士等ヲ撰テ試驗委員トナス可シ

第八條 試驗委員ハ右ノ問題ヲ其番號ニ照シ受験人ノ眼前ニテ開封シ理化學解剖學ヨリ順次之ヲ授ケテ應答筆記セシムヘシ一時ニ問題ヲ受験人ニ付スルヲ得ス

第九條 試驗答記ノ時間ハ毎問二時ヲ超ユルヲ許サス若シ此時間ニ答記スルヲ能ハサル者ハ更ニ次ノ問題ヲ授クヘシ但シ能ク其問題ノ理義ヲ解釋シテ僅ニ寫記ヲ卒ヘサル者ハ委員ノ見計ヲ以テ更ニ半時以内ノ猶豫ヲ與フルヲアルヘシ

第十條 受験人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルヲ許サス又一問ノ答記ヲ了ラサルノ間ハ他席ニ出ルヲ許サス

第十一條 受験人ハ答記了ルノ後委員ノ承諾ヲ請フテ淨書スルヲ得ヘシト雖モ必ス試驗委員ノ眼前ニ於テ決シテ他席ニ持出スヲ許サス

第十二條 試驗開場ノ間ハ日々退場前本日ノ答記并殘余ノ問題ヲ固封シ試

驗委員銘々檢印シテ該場ニ繳シ翌日開場ノ時ニ至テ之ヲ開ク可シ

第十三條 試驗全ク卒ルノ後試驗委員ハ受験人ノ答記ヲ取廻メ別ニ一本ヲ騰寫シテ之ヲ長官ニ出スヘシ長官ハ其本書ニ添書シテ内務省ニ開申シ副

書ハ廳中ニ備置クヘシ

第十四條 内務省ハ前條ノ開申書類ヲ審察シ合格ノ者ニハ免狀ヲ附與スヘシ

第十五條 不合格ニシテ免狀ヲ附與セラサル者ハ最初試驗ヲ受ケタルノ後六ヶ月以上ノ試験期ヲ經ルニ非サレハ再試験ヲ願フヲ得ス

〔第二百二十〕 明治十二年四月廿八日達

乙第四十七號 郡區町村

病氣ノ故ヲ以テ徵兵免役并廢嫡等願出其他法律上醫師診斷書ヲ要スル分認方其病症

ニ正シク適セサル者往々有之哉ノ趣相聞候處右ハ法律ニ向テ一ノ確證ト相成緊要ノ

モノニ付若問違等有之節ハ嚴重ノ處分モ可有之筈ニ候條心得違不致標其筋ノ者ハ兼

テ可相示置此旨相達候事

〔第二百廿一〕 明治十二年七月七日達

乙第七十六號

郡區町村

從來致開業居候醫師ノ儀今般取調ノ廉有之試驗ヲ要セテ假免狀交付候ニ付履歷書添
來ル廿五日マテニ出願可致尤モ志願ノ向ハ試驗ヲ遂ケ直ニ本免狀交付候條醫師一般
〜無洩通達可致此旨相達候事

但開業免狀所持ノ醫師ハ不及其儀候事

〔第二百廿二〕明治十二年八月十四日達

乙第九十號

郡區町村

虎列刺病并類似症總テ流行病診斷候醫師ハ左ノ書式ニ準シ假診察書ヲ郡區役所或ハ
町村吏等ヲ經テ通達致置追テ成規ノ通り届出候條醫師〜無洩可致通達此旨相達候事

假診察書

何郡何町

誰長次男或ハ長次女

何ノ誰

本年乙第
百九號達
候者

本年乙第
百廿號達
候者

右ノ者何日何時罹病ノ旨ニ付本日前何時頃診察致シ候處(コレヲ(同類似)ニ候間
不取敢此段及御届候也

年月日

宮城縣令宛

何郡何町醫業

何ノ誰

〔第二百廿三〕明治十二年九月二日達

郡區町村

乙第九號

本年乙第七十六號ヲ以テ醫師假免狀交付期限ノ儀相達置候處今般詮議ノ次第有之
本月廿日マテ致延期候尤モ自今内務省免狀及本縣假免狀所持無之者ハ該營業不相成
管ニ候條右期限ヲ恣ラス出願候條醫師一般へ告示スヘシ此旨相達候事

但明治八年以後致開業候醫師ハ都テ成規ニ據リ試験スヘキ管ニ付假免狀交付不致
儀ト可相心得事

〔第二百廿四〕 明治十二年九月五日達

乙第百十号

郡區町村

自今醫業ノ者開廢業并轉居轉籍死亡等ノ節ハ其都度郡區役所ヲ經由シテ可届出此旨
相達候事

〔第二百廿五〕 明治十二年九月廿日達

乙第百二十号

郡區町村

本年九乙第百九號ヲ以テ醫師假免狀交付期限ノ儀本月二十日マテ致延期候處萬一心
得違ノ者有之候テハ不都合ニ付更ニ來ル十月十五日迄延期候條同日迄無滞願出候
様醫業ノ者へ無洩可致告示此旨相達候事

〔第二百廿六〕 明治十二年十月十六日達

乙第百二十五号

郡區町村

本年九乙第百二十號ヲ以テ醫師假免狀交付期限本月十五日限致延期候處更ニ來ル
十一月十五日マテ延期候條同日マテ無滞願出候様尙醫業ノ者へ無洩可致告示此旨

本年乙第
百廿五號
達候者

十三年乙
第卅五號
達候者

相達候事

〔第二百廿七〕 明治十二年十一月八日達

乙第百三十号

郡區町村

明治八年以後開業候醫師ハ渾テ成規ニ據リ試験ヲ遂クヘキ管ニ候處今般詮議ノ次第
有之本年八月迄ニ開業セシ輩ニ限リ試験ヲ要セス假免狀交付候條履歷書添來ル三十
日迄ニ願出候様醫業ノ者へ無洩通達可致此旨相達候事

〔第二百廿八〕 明治十三年一月廿三日達

丙第七號

郡區

昨十二年七月前ニ開業致候醫師藥劑産婆ハ本籍寄留ヲ問ハス死亡或ハ他管へ移轉シ
又ハ他管免許醫ニシテ本縣ニ開業致候分免許漢洋雜産婆ノ五類ニ分テ月々増減ヲ配
載シ後半期分取調來二月十日迄進達スヘシ此旨相達候事

〔第二百廿九〕 明治十三年四月十二日達

丙第三十号

郡區

本年丙第
七十一号
達候者

本年太政官第一號藥品取扱規則第四條中第二類第三類ノ藥品ハ處方書ヨリテ調合
スヘシト有之候處右處方書ハ他日ノ證左トナルヘキモノニ付必ス醫師ノ族籍姓名ヲ
記シ捺印スヘキ旨郡區内開業醫及藥舖ヘ告示スヘシ此旨相達候事

〔第二百卅一〕 明治十三年五月廿四日達

乙第三十號

郡區町村

醫師假免狀交附ノ義昨十二年十一月十一日乙第三百三十號ヲ以テ相達置候處期限過去今日ニ至
リ尙出願ノ者有之不都合ニハ候得共特別ノ詮議ヲ以同年八月前開業ノ者ニ限り更ニ
來ル六月十五日迄延期候條出願漏ノ者ハ延滞ノ事情明細取調醫務取締并ニ戶長與印
ノ上郡區役所ヲ經由出願可致旨醫業ノ者ヘ告示スヘシ此旨相達候事

〔第二百卅一〕 明治十三年七月廿四日布達

甲第百十五号

種痘規則左ノ通相定候條此旨布達候事

但從前種痘ニ關スル本縣ノ達指令等此規則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ト心得ヘシ

第一條 郡區適宜ニ種痘區ヲ設ケ醫員ヲ定メ毎年春季二月ヨリ六月ニ至リ秋季九月

ヨリ十一月ニ至ル迄該區内未痘兒ヲ遺漏ナシ種痘セシムヘシ

但天然痘流行ノ際ハ休種季節即チ一月七月ト雖モ種痘スルモノトス

第二條 痘苗ハ春秋二季ニ縣廳ヨリ郡區役所ニ向テ分附シ郡區役所ハ之ヲ各種痘醫

ニ分配スヘシ

第三條 種痘醫ハ豫メ種痘スヘキ日ヲ定メテ戶長衛生委員ニ通知シ戶長衛生委員ハ

其組内ノ未痘兒ニ告示シテ之ヲ取纏メ種痘所ニ出スヘシ

第四條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此期ニ

後ルハモノハ其事由ヲ衛生委員ニ届出ヘシ

但初種ノ後チ五ケ年或ハ七ケ年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ若シ近傍天然痘流行スル

ニ當テハ此年限内ト雖モ速ニ再三種ヲ試ムヘシ

第五條 衛生委員ハ春季ハ一月廿五日秋季ハ八月廿五日迄ニ部内ノ未痘兒ヲ調査シ

該區内種痘醫ヘ通知スヘシ若シ受持ノ種痘醫事故アルキハ其旨隣區種痘醫又ハ本

第三類 醫事

五百九十九

部へ届出派出ヲ請フヘシ

第六條 衛生委員ハ初種ノ者再三種ノ者及ヒ事故アリテ種痘スル能ハサル者等夫々
調査シ郡區役所へ届出ヘシ

第七條 種痘ヲ受ケタル者ハ七日目ニ其接否ノ鑑査ヲ受ケ初種ハ金五錢以上再種以
下ハ金三錢以上ノ謝料ヲ出スヘシ

〔第二百卅二〕 明治十三年八月廿五日布達
甲第百三十六号

郡區醫配置方法同職務心得町村醫配置及公撰方法同勤務心得左之通相定候條此旨布
達候事

郡區醫配置方法

第一條 郡區醫ハ每郡區三名以下ヲ配置スヘシ

第二條 郡區醫ハ管内ノ開業醫ヲ以テ之レニ充ツ縣令之レヲ命スルモノトス
郡區醫職務心得

本甲第
百卅七號
布達來者

第十四甲
第百十一
號布達
更ム

第十四甲
第百十一
號布達
更ム

第一條 土地ノ習俗并衣食住ニ付健康ヲ害スルモノアリト認ムルキハ漸次改良ノ見
込ヲ立縣廳ニ具申スヘキ事

第二條 浴室藥湯鑛泉等ノ景況ヲ視察シ意見ヲ縣廳ニ具申スヘキ事

第三條 人家接近ノ場所等ニテ其臭穢不潔現ニ障害物ト認ムルモノアルキハ縣廳ニ
具狀シ或ハ郡區長又ハ戸長衛生委員ニ通知スヘキ事

第四條 郡區長并戸長衛生委員種痘醫ト協議シ専ラ種痘普及ヲ圖リ務メテ天然痘ノ
災害ヲ防キ若シ種痘醫ニ於テ其施術ヲ怠ルカ或ハ其施術ヲ誤ルモノ等アラハ速ニ

縣廳へ具申スヘキ事
第五條 郡區内ニ傳染病侵入スルカ又ハ近隣郡區ニ流行病アルト聞クキハ町村衛生
委員ニ協議シ豫防消毒方并治療ニ從事スヘキ事

第六條 行倒人變死人及負傷者等アルキハ警察署或ハ郡區役所戸長ノ照會ニヨリ檢
視スヘキ事

但前二條ノ場合ニ於テハ臨時相當ノ手當ヲ與フヘシ

第三類 醫事

町村醫配置及公撰方法

- 第一條 町村醫ハ一戸長管理ノ町村ニ一人以上適宜ニ配置スヘシ
但郡區醫居住ノ町村ニシテ他ニ開業醫ナキハ其郡區醫ニ兼攝セシムルモ妨ケ
ナシ
- 第二條 本籍寄留ヲ問ハズ該町村ニ居住ノ開業醫ハ皆町村醫タルヲ得ヘシ
- 第三條 町村醫ハ區町村會議員ノ投票公撰タルヘシ
但選舉區ヲ分ツテ投票スルモ妨ケナシ
- 第四條 町村醫ヲ選舉セントスルキハ戸長豫メ其日ヲ定メ少クモ三日前ニ選舉會ヲ
開クヘキ旨ヲ公告スヘシ
- 第五條 投票ハ豫メ戸長ヨリ附與シタル用紙ニ自己及被撰人ノ姓名ヲ記シ豫定ノ日
戸長ニ出スヘシ戸長ハ撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ披閱シ多數ノ者ヲ以テ當撰人トシ
之ニ委囑スヘシ
但投票同數ナルキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 當撰人ヲ委囑スルノ後戸長ハ其人名ヲ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ進達シ且町村内
ヘ公告スヘシ

第七條 町村醫ノ平常又ハ給料及任期ヲ定ムルハ其町村ノ協議ニ任スヘシ
町村醫勤務心得

第一條 町村醫ハ衛生委員ト協議シ該町村人民ヲシテ健康ヲ保全セシムヘキ事

第二條 郡區醫事故アルキハ其依頼ニ應ジ一時代理スルヲ得ヘキ事

第三條 其町村ニ傳染病流行スルキハ衛生委員ト商議シ豫防消毒ニ從事スヘキ事
但本條ノ場合ニ於テハ戸長役場或ハ巡行ノ巡查警察署郡區役所等便宜ノ所ヘ迅

速届出ツヘシ

第四條 町村内極貧ニシテ病痼ニ罹リ醫藥ヲ自辨シ能ハサルモノハ戸長衛生委員ト
協議シ懇切診斷治療スヘキ事

〔第二百卅三〕 明治十三年九月六日達

丙第七拾壹号

郡 區

明治十三年一月丙第七號ヲ以テ醫師藥舖産婆増減表差出方ノ義相違候處向後一年兩度別紙表式ニ照シ前半期ハ七月三十一日後半期ハ一月三十一日限り取調進達スヘシ此旨相違候事

但本年前半期分ハ本月三十日迄ニ取調進達スヘシ

(別紙)

醫師産婆
或ハ藥舖 増減表

明治 年	試驗 免許	漢	洋	雜	合計	産 婆
一 月	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減
二 月						
三 月						
四 月						
五 月						
六 月						

小 計	前 年 比 較	増 減 通 計	差 引 剩 數	前 年 六 月 現 數

一 藥舖増減表ハ産婆ノ一欄ヲ除ク
一 後半期表モ右ニ準ス

〔第二百卅四〕 明治十三年十一月廿二日達

丙第九十六號

郡 區

惡病流行之節宮城病院及分局醫員郡區醫地方醫ヲ雇入レ診察治療等ノタメ派出ヲ要スルハ其都度經伺ノ上可取扱此旨相違候事

但虎烈刺病ハ此限ニアラス

〔第二百卅五〕 明治十四年六月十五日布達

甲第九拾三號

醫師開業規則左ノ通知定候條此旨布達候事

醫師開業規則

第一條 醫術ヲ開業スルヲ得ル者ハ内務省免狀及本縣開業免許鑑札ヲ得タル者ニ限ルヘシ

第二條 年齡滿二十歲以上ニ非ラサル者ハ醫術ヲ開業スルヲ許サス

第三條 開業免狀及免許鑑札ヲ有セサル門弟子ヲシテ專斷施療セシムヘカラス

第四條 醫術ヲ開業セント欲スル者ハ第一號書式ノ願書及第二號書式ノ履歷書ニ教師ノ證書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出ヘシ

第一號書式

醫術開業試驗願

私儀

別紙履歷書ノ通何科(內外科專門內科專門 外科眼科產科齒科等)醫術修業仕候ニ付何郡區町村何

番地ニ於テ開業仕度候間御試驗ノ上開業免狀御下附被成下度教師何某証書相添此段奉願候也

縣國郡區町村番地(或ハ寄留)

族籍

姓名印

年月日

縣令宛

第二號書式

修業履歷書

縣國郡區町村番地(或ハ寄留)

族籍

姓名

年齡

一何年何月ヨリ何府縣公立醫學校或ハ病院ニ於テ何年何月マテ都合何年何

第三類 醫事

月間何々學科修業

一何年何月ヨリ何府縣何國何郡區何町村何學士又ハ何科醫師何某ニ從ヒ何年何月マテ都合何年何月間何々學科修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何官奉職又ハ轉免黜陟等詳細

一何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣公立醫學校又ハ病院何々就職又ハ解職等詳細

右之通相違無之候也

年月日

姓名 印

第五條 大學醫學部及歐米諸國ノ大學校ニ於テ醫學ヲ卒業スル者ハ更ニ試驗ヲ要セズ其修業履歴書ニ卒業證書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出免狀ヲ請フヲ得ヘシ

第六條 毎年二月五月八月十一月ヲ以テ試驗場ヲ開クノ期トシ其定期前豫メ開場ノ時日ト出願ノ期限トヲ廣告スヘシ

但時宜ニヨリ定期ヲ減スルコトアルヘシ

第七條 試驗卒ルノ後其管記ヲ內務省ニ開申シ免狀ヲ得テ本人ニ附與スヘシ

第八條 試驗不合格ニシテ免狀ヲ附與セラレサル者ハ其指令ヲ受ケタル後六月以上ヲ經過スルコト非サレハ再試驗ヲ願フヲ得ス

第九條 開業許可ノ者ハ免狀寫ヲ添ヘ其町村戸長衛生委員ヲ經由シテ郡區役所ニ届出ツヘシ

第十條 他管ニ於テ從來開業ノ醫師管内ヘ轉籍或ハ寄留開業セントスル者ハ本人履歷書ヘ元管廳ノ證書ヲ添ヘ其町村戸長衛生委員及郡區役所ヲ經由シテ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第十一條 他管ヘ轉籍又ハ寄留シ開業セントスル者ハ事由ヲ詳記シ其町村戸長衛生委員ヲ經由シテ縣廳ヘ願出添書ヲ請フヘシ

但本縣下付スル所ノ開業免許鑑札ヲ返還スヘシ

第十二條 廢業又ハ死亡スルキハ其町村戸長衛生委員及郡區役所ヲ經由シテ免狀又ハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十三條 施治ノ患者ハ第一号表式ニ倣ヒ病名并全治死亡轉療等ヲ詳記シ毎年一月七月十日迄ニ最寄衛生委員ヲ經由シテ郡區役所へ差出スヘシ

第十四條 傳染病報告ハ本年甲第五十號規則ニ據リ其手續ヲ爲スヘシ

第十五條 地方病ハ脚氣間歇熱ノ二種ニ區別スト雖モ其他地方病ト認ムル者ハ第二号表式ニ準據シ毎年一月七月十日マテニ最寄衛生委員ヲ經由シテ郡區役所へ届ケ出ツヘシ

第十六條 飲食物ノ中毒及藥物誤用等ニ係ル患者アルトハ第三号表式ニ準シ速カニ戸長及衛生委員ヲ經由シテ郡區役所へ届出ツヘシ

表各		施 療 患 者										合	
月	員 數											治 愈	死 亡
	諸經 病器血												
	諸行 病器呼												
	諸吸 病器消												
	諸化 病器諸												
	諸泌 人病尿												
	諸生 病及婦												
	諸小 病兒小												
	諸皮 病附膚												
	諸外 病附諸科												
	計 合												

第三號表

中 毒 患 者 報 告 書			
一 中 毒 名	縣 何 區 何 村 何 番 地 職 業	一 發 期 明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時 一 初 診 明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時 一 全 治 明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時 一 死 亡 明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時	姓 名 何 年 何 月
考 備			
明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時	宮 城 縣 何 區 何 村 醫 師 姓 名 印		
明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時	宮 城 縣 何 區 何 村 衛 生 委 員 姓 名 印		
明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 何 時	宮 城 縣 何 區 何 村 長 姓 名 印		
宮 城 縣 令 殿			

第三類 醫事

〔第二百卅六〕 明治十五年二月廿二日布達
甲第廿二號

開業醫師ハ處方録ヲ製シ日常施治ノ患者一人毎ニ其住所氏名年齢及ヒ病名藥方分量等ヲ詳記シ之ヲ保存シ置クヘシ此旨布達候事
但臨時係官吏之ヲ賅檢スルコトアルヘシ

〔第二百卅七〕 明治十五年六月六日達

乙第十九號

郡區町村

開業醫組合設置手續左之通相定候條來ル七月ヨリ履行可致此旨相達候事

開業醫組合設置手續

第一條 此組合ハ醫師ノ業務ニ關スル互相ノ約束及ヒ病者公衆ニ對スル等ノ義務ヲ定メ醫風ヲ改良スルヲ以テ目的トス

第二條 每郡區地形ノ便否里程ノ遠近ヲ圖リ適宜ニ分番又ハ聯合シテ組合ヲナスヘシ

第三條 每組合醫員ノ多寡ニ應ジ幹事若干名ヲ公撰シ月番ヲ定ムヘシ

第四條 組合醫員及幹事ノ姓名ハ其月番ヨリ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ
但當初届出後ノ異動ハ毎年兩度六月ヨリ十二月ヨリ月番ヨリ本文ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ

第五條 業務ニ關スル法律規則等發行アルキハ月番ヨリ組合中ニ通報スヘシ

第六條 傳染病流行ノ兆アルキハ每組合集會シテ治療及ヒ豫防等ノ手續ヲ協議スヘシ
但傳染ノ勢盛ナリト認ムルキハ月番ヨリ速ニ其景狀ヲ郡區長ヘ報告スヘシ

第七條 每組合中合規則ヲ設ケ郡區長ノ認可ヲ受クヘシ

但郡區長ヨリハ認可ノ上縣廳ヘ報告スヘシ

第八條 渾テ前條ニ係ル經費ハ各其組合ニ於テ之ヲ支辨スルモノトス
〔第二百卅八〕 明治十五年六月八日達

乙第二十號

郡區町村

惡性病流行之節醫員派遣規則左之通相定候條此旨相達候事

但從來ノ達指令等此規則ニ抵觸スルモノハ廢止トス

惡性病流行之節醫員派遣規則

第一條 惡性病流行ニ際シ地方醫師ニ乏シシ救治不十分ナリト認ムルハ其事情ヲ郡區長ヨリ縣令ニ具狀スヘシ

第二條 コレヲ及發疹チフス病發顯ノ届出アリ地方醫ノ診斷不審ナリト認ムルカ又ハ其病勢劇甚ニシテ縣令ノ指揮ヲ待難キ場合ニ際スルハ郡區長ニ於テ直チニ第三條以下ニ準シ醫員ヲ雇入レ派出セシムルヲ得

但此場合ニ於テハ即時縣廳ニ飛報スヘシ

第三條 派遣醫員ハ日給二圓以内ヲ以テ雇入ルヘシ

但旅費日當ハ明治九年六月第六十四号公達内國旅費定則ニ準據シ支給スヘシ

第四條 派出ノ醫員ハ患者ノ請求ニ應ジ治療ヲ加ヘ其藥價ハ該町村戸長又ハ衛生委員ニ於テ取立郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ納付スヘシ

但藥價ハ宮城病院規則ニ依ル

第五條 醫員携帶スル所ノ藥品ハ縣廳ニ於テ原價ヲ以テ下渡スヘシ

第六條 貧困ニシテ藥價等自辨シ難キ者ニ限リ藥價調査ニ戶長衛生委員連署郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ツヘシ

第七條 醫員ニ於テ第四條ノ手續ヲナシタルハ其患者ノ姓名配量藥價等ヲ詳記シ縣廳ヘ差出スヘシ

第八條 醫員ハ發病ノ原因病勢ノ最況療法豫防法ノ概略及患者ノ員數自分治療セシモノト其地方醫師ノ治療セシモノ男女職業年齡治癒死亡ノ別町村救治ノ最況等ヲ明記シ詳細復命スヘシ

〔第二百卅九〕 明治十五年六月九日達

乙第廿一号

郡區町村

從來致開業居候獸醫白樂ト稱スル之儀試驗ヲ要セヌ今般假免狀交付候ニ付履歷書添來ル七月廿日迄ニ出願可致尤モ志願ノ者ハ試驗ヲ遂ケ直チニ本免狀交付候條獸醫一般へ無洩通達可致此旨相達候事

藥劑

〔第二百四十〕 明治十三年二月三日達
丙第十一號

郡區

賣藥請賣并行商鑑札ハ別紙離形ニ據リ族籍氏名等ヲ記載下渡ス可シ此旨相達候事

賣藥請賣鑑札離形

○印ハ朱書ナリ

表

第何号	賣藥請賣許可之証
〇割印	一方名 一同 一同
年月日	何郡役所
	右請賣營業開届候事

裏

請賣營業人	族籍	氏名
	族籍	氏名
賣藥請賣 許可之証		

賣藥行商鑑札離形

賣藥行商許可之証

府縣族籍

賣藥營業何種賣子

苗字名

一何湯 一何丸 一何散

一何膏 一何丹

右行商開届候事

表

年月	何郡區
第何號	役所之印

裏

年月	何郡區
第何號	役所之印

〔第二百四十一〕 明治十三年四月一日布達

甲第五十号

本年一月太政官第一号ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第一類第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致管ニ候條此旨布達候事

(備考) 明治十三年一月十七日太政官布告

第壹號

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十号布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇トス其類目別表ノ如シ

但新クニ發見及ヒ舶來シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ峻劇ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ他物ヲ混シテ製造上或ハ採収ノ際其法疎漏ニシハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラスヲ純精ナラサルモノノ類ヲ云フ但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試驗ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第貳號

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルコトヲサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノハ一切交付スヘカラズ

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若シハ包紙ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ヲ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贗品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ贗品總テ酸敗風化或ハ潮解シ若シハ藥ハ名箋ヲ變換スルモノノ類ヲ云フ取品醜チ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効ヲ販賣スルモノハ其贗取品ヲ没入シ三拾圓方ヲ失スルモノノ類ヲ云フ以上五百圓以下ノ罰金若クハ壹月以上壹年以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳拾五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第三類

藥劑

第七條 右ノ厨則ヲ再犯スルモノハ其本厨ノ最多限ニ貳倍以下ノ厨ヲ科シ
三犯スルモノハ本厨ノ最多限ニ三倍以下ノ厨ヲ科スヘシ

第一類 注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 乳酸鐵
- 吐根
- 礮砂精(アンモニア水)
- カラハル豆及其製劑
- ヨザウム
- 沃土鐵舍利別
- 第一コロール汞(甘汞)
- 炭酸アンモニヤ(礮砂華)
- 蔓陀羅華及其製劑
- 芫菁(斑猫)
- コロラルヒドレート
- 格魯重篤質及其製劑
- 葛葉并根及其製劑
- 榕木籃子及其製劑
- ペボシチ
- 吐酒石
- チキタリス葉及其製劑
- 肝油
- 沃土加里
- 第一沃土汞(黄色沃汞)
- 第二コロール汞(昇汞 猛汞)
- 老利爾結兒私水并苦扁桃水
- 蔞刺巴脂并球根及其製劑
- コロハノアルム
- 格魯失屆質及其製劑
- アトロヒチ攪類

- 阿片製劑
- 醋酸アンモニア水(ミンナレリ精)
- カリシール酸及鹽類
- 規尼涅攪類
- 硝酸銀
- 醋酸セリウム
- エーナル(アーナル)
- ヒヨス葉及其製劑
- 莫爾比涅攪類
- 第二類 毒表
- 磷
- シラール(矢毒)
- 揮發苦扁桃油
- サントニーチ
- 薩爾振根
- 機那皮
- 綿馬及其製劑
- 失鳩管草及其製劑
- 臭素加里(フロームカリウム)
- 鹽基性硝酸銻鉛
- 苺麻子油
- 冰素還元鐵
- カンタリヤーチ
- 亞砒酸(異名 白砒石 礬石) 其製劑及砒
- 抱合物(雜冠 雜黃)
- 有毒性アルカロイド并其攪類
- ニコチチ、ギキョリチ、ナルセーチ、ウエ
- ラトリチ、ブルシチ、コロチ、コデーチ、
- アトロヒチ、アニコチチ、エメチチ、ヒヨ
- シアミチ、モルヒチ、ストリキニーチ、等

猛劇毒劑

白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳

青酸及其制劑

第三類藥表

印度大麻葉及其製劑

番木鱉及其製劑

麥奴及其製劑

ヘルンホル根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑

藤黃

硫酸

苛性加里(腐蝕加里)

芥子油及芥子精

ヨヂウム及其製劑

ヨヂウム鐵

雙鸞菊球根(烏頭)及其製劑

ウヱフトリ根

莨菪葉并根及其製劑

巴豆及巴豆油

ボドヒリオン

吐根及其製劑

毒蒿苗及其製劑

チキタリス葉及其製劑

カラハル豆及其製劑

苛性曹達(腐蝕曹達)

甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸

沃土加里

ヨードホルミウム

老利爾結兒私水并苦扁桃水

過酸滿俺酸加里及曹達

蔓陀羅華葉及其製劑

ケレチナソート

コローム酸

コロシント實及其製劑

コロトシコロ、ラルヒドラート

コロザイン

阿片及其製劑

サヒナ葉及其製劑

サントコーチ

硝酸(硝石精)

失鳩管葉及其製劑

鹽酸(海鹽精)

鹽酸重土其他重土製劑

エウホルピウム及其製劑

石炭酸

スカンモノー脂

藥劑巴脂并球根及其製劑

芫菁(斑蝥)及其製劑

ブロミウム(臭素)

コルシウム實并根及其製劑

コロ、フオルム(迷朦水)

コロラルヒドラート

コローム酸加里及重コローム酸加里

亞鉛華其他亞鉛製劑

醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑

次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅類)

硝酸銀

臭素加里

鹽化金ナトリウム

鹽基性硝酸砒其他砒製劑

ヒヨス葉及其製劑

瑞香皮及其製劑

(第二百四十二) 明治十三年十二月六日達

丙第百三號

郡 區

自今賣藥營業者發賣ノ方劑禁止或ハ廢業ノ節ハ其請賣行商爲致置候住所姓名並藥名番號等左ノ書式ニ據リ管内外ヲ區別シ可届出旨該營業者へ無誤告示スヘシ此旨相違候事

賣藥請賣及行商人員御届

(管内ノ部)

第何號鑑札

宮城縣何郡何町番地

一藥名

何 某

但以下之ニ準ス

右請賣人何人

第何號鑑札

同

一藥名

同

但以下之ニ準ス

右行商人何人

(管外ノ部)

第何號鑑札

何府縣何郡何町番地

一藥名

何 某

但以下之ニ準ス

右請賣人何人

第何號鑑札

同

一藥名

同

但以下之ニ準ス

右行商人何人

合何人

總計何人

右之通相違無之此段御届申上候也

何郡何町番地
賣藥營業人

年月日

何 某 印

宮城縣令宛

〔第二百四十三〕 明治十五年七月廿六日布達

甲第八十五號

石炭酸販賣不相成義ハ明治十年第二十號并ニ第六十九號公布之趣有之候處目今虎列刺病流行ノ際漫リニ販賣候者有之候趣不相濟義ニ付現時ニ限リ五拾倍以上ノ氷ニ溶解シタルモノ及他ノ藥物ト混和調製シタル分ノ外一切販賣不相成候條此旨布達候事
〔第二百四十四〕 明治十五年七月廿六日達

丙第二十六號

郡 區

石炭酸ハ虎列刺病毒消滅ノ爲メニハ必需ノ者ニ付病毒猖獗ノ際ニハ之ヲ撒布スル勿論ノ義ニ候得共虎列刺病發生無之地方又ハ患者無之場ニ於テ漫リニ撒布候ハ當ニ貴

重ノ藥劑ヲ空費スル而已ナラス溶解ノ量ニ依リテハ或ハ人休ヲ害ヒ候劇藥ニ付可成空消セサル様注意可致此旨相達候事
但シ人民ヘ拂下ケ候義ハ實際不得止部分ノ外ハ決テ不相成候事

正誤

廿二丁四行並五行

同 丁七行

卅三丁三行

四十五丁十一行

四十七丁初行

同 丁三行

同 丁七行

六十三丁四行

同 丁五行

六十六丁二行

八十八丁 旅行証離形中

八十九丁 旅行証裏面離形中

宮ハ官

依ハ係

三ハ二

前條ノ下酒造ノ二字ヲ脱ス

抜ハ腹

一時ノ下諸ノ字ヲ脱ス

料ノ下ノノ字ヲ脱ス

揮ハ渾

廿二ノ下日ノ字ヲ脱ス

豫ハ算

何用ノ何ノ下御ノ字ヲ脱ス

何月ノ下何日ノ二字ヲ脱ス

百三十三行
 同 丁十二行
 百四十九行
 百七十二行
 同 丁十行
 百十丁二行
 百十七丁七行
 百十九丁六行
 百廿九丁五行
 百五十三丁九行
 百五十四丁二行
 百五十六丁 宿泊証書離形中
 百六十二丁十二行

旋^〇旅^〇
 新^〇親^〇
 貼^〇帖^〇
 比^〇此^〇
 帳^〇帖^〇
 連^〇署^〇
 地^〇他^〇
 弊^〇廢^〇
 幹^〇翰^〇
 事^〇情^〇實^〇
 腹^〇復^〇
 帶^〇滯^〇
 志願者^〇志願書^〇

二

百八十三丁六行
 百八十五丁八行
 百九十七丁七行
 二百一十二丁初行
 二百廿八丁七行
 二百卅一丁十行
 同 丁十一行
 二百卅三丁八行
 二百五十五丁五行
 二百九十六丁八行
 三百六十二行
 同 丁四行
 同 丁五行

廢^〇廢^〇
 擅^〇擅^〇
 二^〇棟^〇二^〇棟^〇
 廢^〇廢^〇
 請^〇諸^〇
 設^〇設^〇
 探^〇探^〇
 布^〇術^〇
 員^〇育^〇
 三^〇下^〇十^〇字^〇ヲ^〇脱^〇ス
 軌^〇軌^〇
 日本地理^〇日本地理^〇
 博物學及圖^〇ノ^〇下^〇物^〇理^〇ノ^〇二^〇字^〇ヲ^〇脱^〇ス

三

同 丁七行
 三百八丁八行並九行
 三百九丁初行及二行
 三百廿三丁七行
 三百廿六丁九行及十行
 三百廿八丁初行
 三百廿九丁初行
 同 丁十三行
 三百卅丁五行
 三百四丁八行
 三百五十六丁六行
 三百五十八丁二行
 同 丁五行

復[○]核[○]校[○]術[○]
 拾[○]格[○]
 拾[○]格[○]
 拾[○]格[○]
 小立[○]立[○]小[○]倒植[○]
 書[○]書[○]
 拾[○]格[○]
 帖[○]貼[○]
 幾[○]幾[○]
 歷[○]曆[○]政[○]蹟[○]政[○]績[○]成[○]盛[○]
 數[○]度[○]度[○]數[○]倒置[○]
 授[○]授[○]授[○]
 執[○]執[○]和[○]知[○]
 同

三百六十四丁十二行
 同 丁十三行
 三百六十二丁十行
 三百六十三丁十三行
 三百六十六丁十二行
 三百六十七丁十三行
 三百七十五丁八行
 三百九十二丁 願書式中
 三百九十七丁十行
 同 丁十一行
 三百九十八丁初行
 四百六丁十三行
 四百卅一丁六行

刑[○]形[○]
 利[○]科[○]
 ン[○]ン[○]ン[○]
 ル[○]ハ[○]術[○]
 蓄[○]畜[○]
 物[○]品[○]動[○]下[○]植[○]ノ[○]字[○]ヲ[○]脱[○]ス
 評[○]點[○]
 驕[○]驗[○]
 帳[○]帖[○]
 同除異除[○]同乘異除[○]
 萬國地誌ノ下地ノ字ヲ脱ス
 拾[○]格[○]
 疏[○]疏[○]

同 丁八行
同 丁十行

四百卅二丁七行

四百四十三行

四百四十二丁五行

四百七十三丁十一行

四百七十四丁二行

四百七十五丁八行

四百七十七丁七行

四百九十一丁六行

四百九十八丁六行

五百卅四丁四行

五百四十七丁九行

飯料、飲料

販、販

理、理

做、做

搬、播

年齡二ハニ

五人二ハニ

七月、十月

沼地、沼池

蓄、畜

做、做 麻

室、室

診查スヘシハ診查シ兼テ看護人ノ勤怠ニ注意

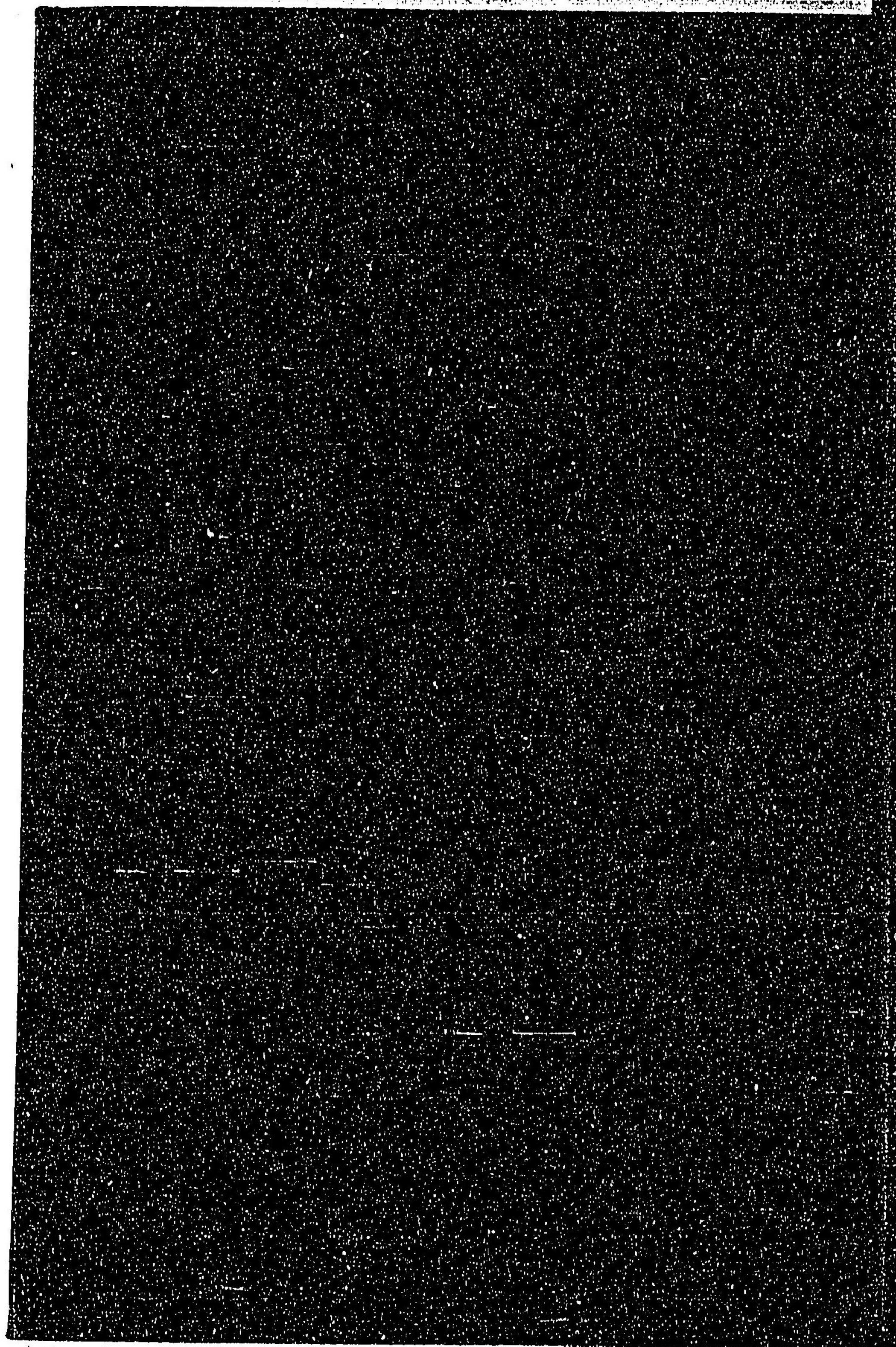
五百五十二丁八行
五百九十一丁六行

大ヘシノ誤

分、方

廳、廳





031290-001-2

CZ-1113-17-04

現行宮城県布達類纂

第1編1, 2卷, 第2編, 第3編

宮城県

M15-22

BBD-0436



